



2026 年 6 月 25 日放送

日薬アワー JPALS 認定薬剤師制度の改正について

日本薬剤師会
常務理事 山田 武志

JPALS は、日本薬剤師会が運営する生涯学習を支援するインターネット上のシステムです。その理念は「薬剤師の生涯学習を支援すること」にあります。2012 年から運用が始まり、薬剤師が日々の学習を記録し、自らの成長を振り返りながら、継続的に学び続ける仕組みとして、多くの先生方に活用いただいています。

薬剤師という仕事は、免許を取得したら終わりではありません。むしろ、免許を取得してからが本当のスタートです。医薬品や医療制度は日々変化していますし、患者さんを取り巻く環境も大きく変わっています。そのため、薬剤師には「生涯にわたって学び続けること」が求められています。

一方で、薬剤師を取り巻く環境は、この十数年で大きく変化しました。高齢化の進展、在宅医療の拡充、ポリファーマシーへの対応、医療 DX の推進など、薬剤師に求められる役割はますます広がっています。単に処方箋どおりに薬をお渡しするだけではなく、患者さんの生活背景や服薬状況、副作用の有無、残薬の確認、さらには多職種との連携など、より包括的な対応が求められるようになっていきます。また、電子処方箋や電子カルテ情報共有サービスなど、医療 DX も急速に進んでいます。これまで以上に患者情報を活用しながら、薬学的観点から処方内容を確認し、必要に応じて医師へ疑義照会や処方提案を行うことも期待されています。その中で、薬剤師には「学び続ける姿勢」がこれまで以上に求められています。

JPALS では、実践記録として学習を記録・蓄積し、生涯学習の定着を図るとともに、学習の成果を Web テスト等で評価・認定することで、薬剤師の資質向上と国民の保健・医療・福祉への貢献を目的としています。具体的には、薬剤師が生涯にわたって学習し、身に付けるべき知識・技能・態度を体系化した「薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダード」を指針に、研修会や職場での勉強会、書籍、e-ラーニング等、薬剤師としての学習内容

を「実践記録」として記載してシステムに蓄積します。

特徴的なのは、「何を学んだか」だけではなく、「その学びを実際の業務にどう活かすか」を重視している点です。例えば、研修会で学んだ副作用対策を、実際の患者さん対応にどう結びつけるのか。あるいは、地域包括ケアに関する学びを、在宅医療や多職種連携にどう活かしていくのか。そうした「実践につながる学び」を積み重ねていくことが、JPALS の大きな特徴です。

また、JPALS は国際薬剤師・薬学連合、いわゆる FIP が提唱する CPD (Continuing Professional Development)、継続的な専門能力開発の考え方を取り入れている点も大きな特徴です。単に研修を受けるだけではなく、自ら課題を見つけ、学び、実践し、その結果を振り返り、次の学びにつなげる。このサイクルを継続していくことが重要とされています。

さらに、2018 年には薬剤師認定制度認証機構 (CPC) の認証を取得し、一定の基準を満たした薬剤師が「JPALS 認定薬剤師」を名乗ることができるようになりました。こうした中で、JPALS は全国の多くの薬剤師の先生方に利用される制度へと成長してきました。

一方で、制度運用を続ける中で、様々な課題も見えてきました。これまでの JPALS は、CL (Clinical Ladder) という段階的な仕組みのもとで運用されてきました。学習の進度を CL レベル 1~6 に区分し、レベルごとに Web テストを受験、実践記録も段階に応じて提出する形をとっていました。しかし、この制度では「認定取得までに最短でも 3 年 3 か月、通常は 4 年」という長い期間を要し、利用者からは「学習成果をより早く形にしたい」「認定までのプロセスを簡潔にしてほしい」といった声が寄せられていました。また、CPC の認証を取得している他団体の認定制度は、より短期間で認定取得が可能となっており、制度間のバランスや整合性を図る必要性も高まっていました。さらに、薬剤師のキャリアパスが多様化するなかで、現在、検討が進められている専門薬剤師制度や領域別認定薬剤師制度との整合性をどのように確保するかも大きな課題でした。

そこで、日本薬剤師会では、制度改正の議論を重ね、2025 年 6 月に CPC より「JPALS 認定薬剤師制度」の変更承認を得て今回の制度改正が実現しました。

では、今回の改正で何が変わるのでしょうか。

まず、大きな変更点の一つが、CL レベルの廃止です。これまでのレベル 1~6 までの段階制を見直し、よりシンプルな仕組みに変更しました。もちろん、学習そのものが簡単になるわけではありません。しかし、利用者にとって分かりやすく、学習に集中しやすい制度にしたいという考えから、制度の簡素化を行いました。画面上でのレベル表示は 2027 年 4 月から廃止されますが、これまで積み重ねてきた学習が無駄になるわけではありません。現在利用されている先生方も、円滑に新制度へ移行できるよう配慮されています。

次に、「認定取得までの期間短縮」です。これまで最短 3 年 3 か月必要だった認定取得期間が、改正後は最短 1 年 3 か月まで短縮されます。登録から 1 年以上経過し、必要な実践

記録などの条件を満たせば、3月に実施される Web テストを受験できるようになり、合格すると「JPALS 認定薬剤師」を取得できます。これにより、若手薬剤師の先生方も、比較的早い段階で認定取得を目指せるようになります。

ただし、ここで誤解していただきたくないのは、「簡単に認定が取れるようになった」ということではありません。むしろ、今回の改正では、「実践を伴った学習」をより重視する方向へ進んでいます。その象徴が、「実践記録の必須項目の見直し」です。まずは提出本数については、これまでは、レベルごとに毎年 6 本以上、合計 24 本の実践記録が必要でしたが、改正後は「直近 3 年以内に 18 本以上」という形に変更されました。さらに重要なのが、「学習内容で実践活用が出来そうな例・学習が実践活用出来た例」という記載が必須になった点です。つまり、「研修を受けました」で終わるのではなく、「その学びを患者さん対応や業務改善にどう結び付けていくか」を振り返ることが求められるようになります。こうした振り返りを行うことで、単なる知識習得ではなく、「実践できる薬剤師」としての成長につながっていきます。これはまさに、CPD の考え方そのものです。

薬剤師に求められるのは、「知識を持っていること」だけではありません。その知識を、患者さんのためにどう活かせるかが重要です。今回の改正では、そうした“実践につながる学び”をより重視した制度設計になっています。

また、Web テストも変更されます。これまで CL レベルごとに実施していた Web テストは認定時の 1 回に一本化されますが、問題数は 50 問、合格ラインは 30 問と従来通りで、制度の透明性と公平性を確保しています。

さらに、「JPALS 認定薬剤師」で薬剤師免許取得後 5 年以上の方は、本会を含む薬学関係 5 団体が共同で実施している「薬剤師生涯学習達成度確認試験」を受験できます。合格者には従来の「CL レベル 6」に代わり、「JPALS 認定薬剤師（アドバンスト）」の称号が与えられ、薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダードを幅広く学んだ証となります。

今回の制度改正は、2026 年 4 月に施行され、初回の Web テストは 2027 年 3 月に実施予定です。改正にあたっては移行期間が設けられており、現在利用されている方も円滑に新制度へ移行できるよう配慮しています。

本改定により、JPALS はより多くの薬剤師が参加しやすく、学習成果を明確に評価できる仕組みへと進化します。制度の簡素化と認定取得までの期間短縮により、忙しい日常業務の中でも計画的な学習の積み重ねが可能です。なお、認定取得後も 3 年ごとに実践記録を提出して更新する仕組みは変わりません。この継続的な実践記録の蓄積こそが、薬剤師としての成長を支える基盤となり、専門性を高めることにつながります。

薬剤師の職能は、ヒューマニズム、医薬品の適正使用、地域住民の健康増進、リスクマネジメント、法律制度の遵守など多岐にわたります。その力を社会から確実に評価されるためにも、生涯学習の積み重ねは不可欠です。JPALS はその道筋を示す羅針盤であり、今回の改正は薬剤師がより自律的に研鑽を深める環境を整えるものです。若手からベテランまで、

キャリアの各段階に応じた活用が可能であり、ジェネラリストとしての資質向上や領域別認定薬剤師・専門薬剤師を目指す基盤としても大いに役立ちます。日本薬剤師会の会員であれば、JPALS の利用料は無料です。ぜひこの機会に改めて JPALS を積極的にご活用ください。